

## 境谷～遥かなる桃源郷～

【報告者】F末

【日時】2018年9月16日～17日 【天候】晴れ

【参加者】O森、T橋、O原、K崎、F末

### 《コースタイム》

【9月15日】19:00 帰福→22:00 道の駅錦

【9月16日】6:00 頃起床→7:00 頃出発→8:00 入溪→15:00 二俣→15:30 テン場

【9月17日】5:30 起床→6:40 出発→7:30 ピーク（1642m）→8:30 ニツ岩→12:45 下山→帰福

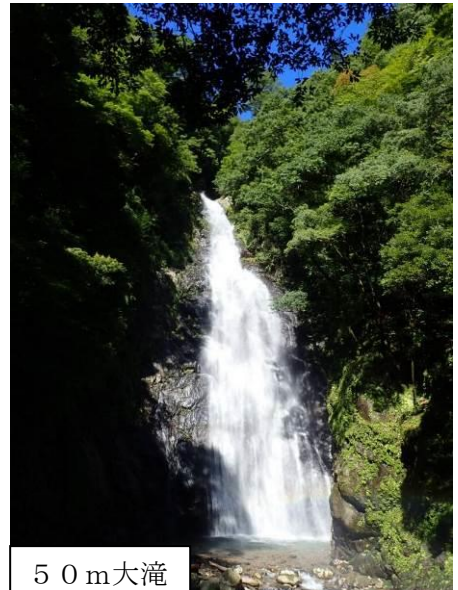
### 《 報 告 》

それぞれの1日を経て、僕たちは再び集まることとなった。僕にとっては、4年ぶりの沢中泊であり、その間に行った沢といえば、金山と洗谷くらい。期待と、大きな不安を抱えて、集合場所へと向かった。メンバーはこれ以上ないくらいの安定感。ピナクル最強と思われる頼りまくれるメンバーだが、その分、ついていけるか非常に心配だった。

朝、入溪地へとたどり着く。途中水が少ないかのようにも見えたが、一ツ瀬川本流の流れは速く、遡行する者の意思を試すかのように渦巻いている。だが、むしろ、僕はそういうのが大好物。沢に帰ってきた喜びを体現し、飛び込んだ。

ちょっとした滝をいくつか越えると、50mの大滝が現れる。右岸側に巻道があるが、取付きはトラロープのごぼう登り。他にも巻き方はあったのだろうが、空荷でO原さんが気合の登りを魅せた。その後もロープ登りやモンキークライムのしびれる高巻が続き、約1時間30分後、ようやく沢に戻ることが出来た。この時点で、体力はそがれ、結構ばてていた。その後も巻に次ぐ巻。沢を登っているのか、藪を漕いでいるのか分からなくなる。

体力不足がたたり、メンバー間の距離が結構離れていた。その時は二俣との確信が持てなかったが、二俣の出会いは平凡な感じの右俣と、ナメ滝の左俣となっており、水量比も1:1くらいだったので、左の方が本流っぽくみえるかもしれない。T橋さん、O原さん、O森さんは、遥か彼方におり、ルートを確認することが出来なかったのが反省だ。だが、左俣の溪相は素晴らしく、高度100mに渡りナメが連続しており、遡るものを飽きさせない。ナメの終わりほどで、ようやくルートを間違えているのではないかと確信に至り、GPSで位置の再確認を行う。そして、今後どういうルートで抜けるか検討した。どのルートが正解か全くわからないが、このルートファインディングこそが、山の経験値が問われるところでもあり、わくわくするところでもある。



50m大滝



ひたすら続くナメ

ナメの区間は終わり、苔むした日本庭園風の溪相へと変化してきた。15時を過ぎていたこともあり、そろそろテン場を探しながら登ることにした。それにしても源流域の美しいこと。15時30分にテン場と定めた桃源郷へと到着した。テン場については薪を集め、宴の準備へ取りかかる。沢中泊のメニューは贅沢だ。O原さんの気持ちのこもった8000円分の高級ベーコン、お米4合（O森さんがたき火で上手に炊いてくれました）、ウィンナー、塩サバ、チーズ、オイルサーディン、自家製紅ショウガ、エイヒレなど。皆疲れきっていたので、しっかりと栄養を補給し、早めの休息をとった。

夜明け前から、皆ごそごそと動き始めた。今日も厳しい行程となることを想定し、着々と準備を進めた。東に開ける谷だからか、真正面に朝日が昇り、まぶしかった。

6時40分行動開始。すぐに水は枯れ、最後の水くみを行った。7時30分頃稜線へ出て、1642mピークへ到達。天気は良く、視界も良好。眼下に絶景が広がる。それから二ツ岩までは、ところどころ崩壊が進んでいるが、素晴らしい縦走路。市房山系の絶景を満喫した。二ツ岩からの下山は道なき道の急坂。何度も転げ落ちながら下る。途中でO森さんはカメラを紛失してしまった。



二ツ岩までの縦走路

K崎さんと僕は、体力の限界が近づいていて、先行三人に、所々待ってもらいながらの下山となった。

12時45分下山。泥まみれになりながら駆け抜けた僕たちの体は、冷たい水を欲していた。再度一ツ瀬川にダイブし、僕は眼鏡を、O原さんは携帯のバッテリーをダメにした。



一ツ瀬川へダイブ！

最初から最後まで、リーダーには難しい判断が求められる場面が多く、大変だったと思います。中々皆についていけず、おんぶにだっこの山行となってしまいました。大変感謝しております。

今回は、O森さんの熱烈オファーがなければ境谷にはこれいなかっただろうし、メンバーの変わらない安定感は、僕のブランクを感じさせませんでした。やっぱり、山は楽しいし、会の山行は楽しいし、沢中泊は最高だということが再確認できました。体力や技術を維持し、楽しい山行に参加したいと思います。



《概念図あるいはルート図》

